

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習（BHELP）を実施しました（2023/2/4）

テーマ：日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース（BHELP）

場 所：Web 研修（ホストは東北大学災害科学国際研究所、宮城県仙台市）

2023年2月4日（土）、東北大学病院「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」の一環として、第23回 BHELP 標準コース web コースを開催しました。東北地方を中心とする保健医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員）、行政職員ら21名が受講し、日本全国から21名のインストラクターが講師として参加しました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）がコースコーディネーターとして運営に携わりました。

日本災害医学会 BHELP（Basic Health Emergency Life Support for Public）標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営・運営を、被災者の生命、健康維持の観点からサポートできる人材を育成するためのコースです。災害時の避難者のなかには多くの傷病者、要配慮者が存在します。保健医療福祉の観点からどのようにトリアージし、サポートし、外部機関につなげればよいか、座学やグループワークを通して概念、スキルを学習します。

コロナ禍によって web コースが開発されたことで、受講生、講師とも勤務地・居住地から新型コロナウイルスへの感染を心配せずに研修に参加出来るようになりました。グループワークにおいては、異なる職種の観点から、要配慮者への支援の在り方、外部との連携について、熱心な討論がくり返されました。また、諸外国と日本の避難所への考え方の違いについても様々な討議がされました。

BHELP標準コースの目標

1. 災害対応に関する共通言語と共通原則がわかる
2. 自らの生命を守るための行動が想定できる
3. 被災した住民の生命を守るための行動がわかる
 - 1 傷病者の救護：CSCATTT
 - 2 要配慮者の救護：CSCAHHH
 - Health care Triage ヘルスケアトリアージ
 - Helping Hand 手を差し伸べる
 - Handover つなぐ
4. 住民の健康維持に配慮した避難所の設営と運営の留意点がわかる。
5. 要配慮者への体制整備（福祉避難所）の必要性がわかる

BHELP 標準コース到達目標

演習5 設問④

どのように避難所をレイアウトしたらよいでしょうか

【配慮する点】

- ・健康問題の予防をすること
- ・生活環境を改善すること

避難所のレイアウトを健康問題から考える

福祉避難所の周知状況

- ・あらゆる媒体を活用し、福祉避難所に関する情報を広く住民に周知する
- ・平時から要配慮者本人やその家族、支援者、福祉・保健・医療関係者、自主防災組織等に、指定福祉避難所の目的やルール等の普及啓発に努める
- 特に要配慮者・避難行動要支援者及びその家族、地域の自主防災組織、支援団体等に対して周知を図る

図表 2-3-2 福祉避難所の住民への周知状況（市町村アンケート 911）

※福祉避難所として指定している自治体は、一時的に指定されている自治体と区別されている。
※福祉避難所は、指定している自治体だけでなく、関係している自治体も周知している。
※周知していない
※無回答

「指定避難所などにおける良好な生活環境を確保するための標準的施設整備指針（平成30年4月内閣府公表）」

福祉避難所について学習



コース受講者と全国から参加したインストラクター（Zoom スクリーンショット）

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）